

# ベスト・セレクション

2025年は三岸節子(1905~1999)の生誕120年の年にあたります。これを記念し、当館では、昨年、来館者の方々にお気に入りの作品の投票を募り、全部で178人の方から投票をいただきました。今回のコレクション展では、上位に選ばれた作品を皆さんのお気に入りポイントとともに紹介します。

## 第1位 <さいたさいたさくらがさいた>1998(平成10)年

最晩年に神奈川県大磯のアトリエで、当美術館のメインになるようにと、最後の力をふりしぼるようにして描いた作品です。太い幹から桜の花がまるで生き物のように広がり、渦を巻いています。キャンバスと格闘するように幾重にも薄い絵の具を塗り重ねることで生まれた独特のマチエールからは、静かな迫力が伝わります。

お気に入りの理由として、「94歳の晩年でも力強く描かれているところに魅力を感じました」「桜が咲きほこる時の美しさがあふれだしてくる感じがした」「何かを開いているような命を包み込んだような絵」「人生のパワー、昇華、流転を感じる」「圧倒される迫力。桜の生命力を絵の中からひしひしと感じます。」「明るい色となめらかなタッチで桜が咲いたことへの喜びを感じられた」などたくさんのコメントをいただきました。

## 第2位 <自画像>1925(大正14)年 <室内>1939(昭和14)年

2点とも同じ投票数で2位でした。20歳の<自画像>は描かれてから今年でちょうど100年を迎えます。三岸節子の画壇デビューを飾った記念すべき作品です。小品ながら、その瞳や表情に、これからの画家としての歩みに対する不安や決意など、様々な感情を読み取ることが出来ます。投票いただいた理由には、「目が印象的です」「まっすぐな視線がいい」「あの目が…」などやはり目に注目が集まりました。そのほか「せっちゃん(節子さん)の昔の感じが分かるから」「節子さんはこうゆう人だったんだって想像できるから」など、この絵から若い頃の節子さんを思い浮かべた方もいました。

<室内>は、中央に垂れ下がる赤と青のじゅうたんや、背景の緑など、鮮やかな色づかいが印象的な作品です。子育てや家事に忙しかったであろう時代に、身近なものをモチーフに豊かな創造力を展開させて美しい室内画や静物画を生み出しました。皆様から「色彩が明るく元気になれます」「ポップな感じがしてとてもかわいい」などの感想のほか、「明るい色がたくさん使われていて、穏やかで平和な日常の様子が伝わってくる(でもこの絵が描かれた頃は好太郎さんも亡くなり一人で子育てをして大変な時代だったので、節子さんの夢や理想だったのかな?とも思う)」というコメントもありました。

## 第3位 <アルカディアの赤い屋根(ガチスにて)>1988(昭和63)年 <ブルゴーニュにて>1989(平成元)年

この2点も同じ投票数で3位でした。<アルカディアの赤い屋根(ガチスにて)>は、南スペインで描かれた作品で、遠くまで連なる鮮やかな赤い屋根と白壁、そして突き抜けるような青い空が印象的です。皆様やはり色づかいに感銘を受けたようで、「きれいな色の赤い屋根が素敵です」「赤い屋根が美しく白い壁とのコントラストが良い。一番上の青い空が効いている!」「赤の色がせまってきて、その大胆さに勇気をもらいます」「赤い屋根と白い壁が特徴的でよく印象に残っています」といったコメントが寄せられました。

<ブルゴーニュにて>は、黄色の花が広がる野に突然嵐が訪れ、鳥たちが一斉に飛びたつ瞬間をとらえた作品です。光り輝く世界の向こうに静と動、明と暗、生と死がせめぎあい、ドラマチックな一瞬をとらえながらも深い物語性をたたえています。作者は本作品の様に、気象の変化により身近な風景が姿を変える瞬間をたびたび作品にしています。投票者からは「絵に対する真摯な節子さんの気持ちといつまでも心に残る絵でした」「目のさめるような黄色と妙にリアリティがあって動きがある鳥のシルエットが気に入っています。左上の黒く描かれた森が神秘的です。」などのコメントをいただきました。

# ベスト・セレクション

会期：2025年3月22日(土)～7月13日(日)



## 展示目録

番号	作品名	制作年	年齢	縦×横(cm)	号	技法・材質
1	自画像	1925(大正14)	20歳	30.5× 22.0	3F	油彩・キャンバス
2	月夜の縞馬	1936(昭和11)	31歳	38.2× 63.2	変12P	油彩・板に貼った厚紙
3	群がる馬	1938(昭和13)	33歳	162.0×130.0	100F	油彩・キャンバス
4	室内	1939(昭和14)	34歳	80.0×130.0	60F	油彩・キャンバス
5	馬	1930年代後半		24.3× 33.3	5F	油彩・キャンバス
6	花	1951(昭和26)年頃	46歳頃	52.8× 45.6	10F	油彩・キャンバス
7	花	1952(昭和27)	47歳頃	45.8× 33.5	8P	油彩・キャンバス
8	かれい	1953(昭和28)	48歳	90.9× 60.0	30M	油彩・キャンバス
9	鳥と琴を弾く埴輪	1957(昭和32)	52歳	97.0×130.3	60F	油彩・キャンバス
10	花	1950年代		64.2× 41.2	変15M	油彩・キャンバス
11	花 陶板	1950年代後半		19.0× 78.0		陶板画
12	飛ぶ鳥(火の山にて)	1962(昭和37)	57歳	116.7× 91.0	50F	油彩・キャンバス
13	太陽	1964(昭和39)	59歳	90.9× 72.7	30F	油彩・キャンバス
14	カーニュ風景	1969(昭和44)	64歳	34.0× 27.0	5F	油彩・キャンバス
15	カーニュ風景	1969(昭和44)	64歳	90.9× 72.7	30F	油彩・キャンバス
16	朝がきた(ヴェネチア)	1971(昭和46)	66歳	90.9× 72.7	30F	油彩・キャンバス
17	ヴェネツィアの橋	1971(昭和46)	66歳	92.0× 73.0	30F	油彩・キャンバス
18	スペインの白い町	1972(昭和47)	67歳	72.5× 60.0	20F	油彩・キャンバス
19	花 ※寄託作品	1986(昭和61)	81歳	34.8× 26.8	5F	油彩・キャンバス
20	小さな町(アンダルシア)	1987(昭和62)	82歳	89.0×116.0	50F	油彩・キャンバス
21	アルカディアの赤い屋根(ガチスにて)	1988(昭和63)	83歳	60.0× 73.0	20F	油彩・キャンバス
22	ブルゴーニュにて	1989(平成元)	84歳	81.0×100.0	40F	油彩・キャンバス
23	花	1989(平成元)	84歳	73.0× 60.0	20F	油彩・キャンバス
24	作品 I	1991(平成3)	86歳	130.3× 97.0	60F	油彩・キャンバス
25	さいたさいたさくらがさいた	1998(平成10)	93歳	130.0×160.0	100F	油彩・キャンバス
26	花(絶筆)	1999(平成11)	94歳	45.8× 38.2	8F	油彩・キャンバス
27	自筆原稿「三岸節子美術館」全2枚	『尾西市政40周年記念 三岸節子展』(1994年、尾西市歴史民俗資料館)図録掲載				
28	自筆原稿「桜花」全2枚	花譜12ヶ月「ミス」1992年4月号(文化出版局)掲載(『未完の花』再掲)				

※都合により展示の内容を一部変更することがあります。作品目録のNoは作品の並びと異なります。